

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0470300260		
法人名	有限会社 ライフサポート		
事業所名	グループホーム オリーブ		
所在地 (電話番号)	塩釜市松陽台三丁目25-20		(電 話) 022-365-5281
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成20年 9月25日		

## 【情報提供票より】(平成20年 8月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.3 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000~23,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要( 8月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.3 歳	最低 79 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ももせクリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホーム「オリーブ」は、平成15年8月に塩釜市松陽台の閑静でバスも通る便利な住宅地に開設されている。入居者(9名)は要介護度が1~3で職員のケアに支えられ自立した生活を送っている。訪問当日も明るく元気な声で「懐メロ」を歌っていた。昼食時には相互におしゃべりをしながら食事を楽しむ雰囲気があふれていて、職員と入居者の協力と信頼関係の良さを感じさせられた。一方、地域密着型サービスや地域に開かれた施設という視点からすれば、今後の課題として改善の努力が望まれる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題16項目(地域密着型サービスの独自の理念等)のうち、市町村との連携やチームで作る入居者本位の介護計画等項目が改善され、残りの課題については現在もなお取り組んでいる。尚、「ホームの看板」も取り付けられている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) パートを含む全職員で取り組んだ結果、自己評価の意義について、より理解を深め合うことができたとしている。その中での気づきや見出した改善点が浮き彫りとなったことのひとつに「職員を育てる取り組み」を充実していくためには、「職員不足の解消」をあげており、期待したい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヶ月に1回の開催に努力している。運営面では、サービス内容やケアの状況外部評価の結果等の報告説明を行い話し合われ双方向的運営がなされている(議事録による)がメンバー構成についての拡充が望まれる。町内会長、民生委員等第三者を加えた構成にすることでお願いしたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重点事項説明書に苦情処理機関として、事業所の窓口、市町村、国保連までは明記し掲示しているが、民生委員や介護相談員等第三者が欠落しているので、今後第三者委員の委嘱について早急に取り組んでいただきたい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念とも関連するが、現状は地域の諸行事への参加や、地域住民との日常的交流、ボランティアの受け入れ等で交流を深めるところまでいたっていない。また、開かれたホームとして地域に開放することで、より理解と協力を地域に求めていくためにも、町内会への加入が急務と考える。期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年の評価以降、ホーム独自の地域密着型サービスとしての理念について全職員で話し合い検討を進めているものの、今のところ未だ文章化するまでに至っていない。 法人としての理念は成文化されている。	○	地域密着型サービスの目標とするところは、認知症であっても、普通の人として家族や地域住民と支え合いながら暮らすというものであり、このことを踏まえたホーム独自の理念を明示する必要がある。早急に見直すようにしていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々理念を共有し取り組んでいるとしているが、十分とは言えない。 但し、入居者一人ひとりの尊厳を大切にケアを実践していることは認められる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の福祉施設や医療機関の行事には参加しているが地域の行事や活動に参加するまでには到っていない。地域住民との交流は不十分としている。	○	日常の散歩等を通じ地域住民と顔なじみになる努力も欠かせないが、まずは町内会に加入し地域活動や諸行事に参加していくことにより理解と協力を得られ交流を深めるよう取り組んで頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	パートを含め全職員で、評価の意義について話し合い理解を深め合う中で今回の自己評価に取り組んだ結果、気づきや反省点が見出すことが出来、その後の改善につなげている様子が見受けられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回のペースで開催に努力しており、運営面でもサービス内容、ケアの状況等の報告と説明に対する意見等双方向的な進め方(議事録あり)になっているが、メンバー構成上見直しする部分がある。地域の町内会長、民生委員の方にも入ってもらえるよう働きかけをお願いしたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	塩釜市福祉課の担当職員が運営推進会議の構成メンバーの一員になっていて、介護や福祉関係法制度や地域密着型サービスの在り方等につて助言、指導、相談ができており日常の連携と協力体制を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、入居者の身体及び生活の状況、金銭の出納状況を書面で報告している。また職員の異動についてもお知らせしている。家族会はないが、理解と協力は得ている。(家族アンケートの内容より)		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情処理機関については明記し、玄関に意見箱を置いている。しかし、第三者委員の委嘱がなされていない。	○	苦情相談は、事業所のサービスの質の向上にとって貴重な情報源となるものであって、利用者の心理上気軽に話せるように、町内会長、民生委員等第三者委員の委嘱を検討して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動は、法人内の人事で1件であり、中心的な職員の異動は無いがパートの離職が多かったことから一時期利用者には不安を与えたことを反省している。今後再演しないよう配慮していきたいとしている。	○	利用者と職員の馴染みの関係を保つことはケアする上で重要な要素であり、職員の異動や離職による入居者や家族へのダメージを防ぐ配慮が不可欠なので今後とも事前事後の対応について十分な配慮をお願いしたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための勤務調整はしているものの、職員不足(昨年より1人減員)のこともあり、スキルアップのための内外研修を計画し実施する余裕がなく苦慮しているとのことである。	○	新規採用者はもちろん、現任者についても段階別の研修は必須のものであり、介護の質の向上から言っても重要である。職員不足の解消及び研修の計画、実施について、法人の責任に於いて解決するようお願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後取り組んでいきたいとしているが、さしあたりNPO県グループホーム協議会への加入を検討しているとのことであり期待したい。	○	今後取り組んでいきたいとしているが、さしあたり県グループホーム連絡協議会への加入を検討しているとのことであり期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人及び家族にホームに来て頂き、ホームの雰囲気に溶け込み馴染みの関係づくりをすることで、納得の上で利用開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者本人と職員が相互に尊重し合い本音で話し合える関係を築く中で、買い物や散歩外出等の支援を行っており、本人と共に過ごし支え合う関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。介護度が軽度の方なので外出が多く、お花見や芋煮会に出かけるほか、日常的にも食材の購入や外食やドライブ等本人のペースを大事にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員の専門性を活かした日常的な観察を行う中で、本人の意向、家族の希望を踏まえた上で職員間の話し合いのもとに介護計画を作成している。また計画の写しを家族に渡し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しに当たっては、これまでの計画について経過の観察と評価を行い3ヶ月に1回見直ししている。また心身状況の変化があった際にはその都度見直し家族に対し写しを渡している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は原則として家族の同伴としているが、家族の事情からホームで対応する場合が多くその時は、急変時を含めホームが介助支援を行っている。また本人、家族の要望で外出、外泊についても支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人が慣れ親しんでいるかかりつけ医を優先して受診支援をしている。この場合の介助方法や情報伝達方法については家族と合意をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回評価時点でターミナルケアについては不可能ということだったことから、今後に向けた期待として、看護師の配置を含めた医療連携体制や家族、医師、職員間の話し合いを深めながらできる事、できない事を含め検討していただきたい。	○	現在入居されている9名の方はいずれも軽度ということもあって、さし迫った状況ではないとしても、今後重度化していくことを考えた場合、本人、家族の希望や社会的要請等が予想されることであるので重度化や終末期に向けた方針の共有(意思確認書の成文化等)について引き続き検討をお願いしたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは、慎重かつ厳重に管理されている。利用者一人ひとりの尊厳、誇りやプライバシーの確保を徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日一日をどのように過ごしたいか、どんなことをしたいか、本人の意向や希望を把握し、業務優先ではなく、本人のペースに合わせた支援に徹している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の昼食を入居者、職員のみなさんと一緒に同じものを試食させてもらったが、いろいろなおしゃべりをしながら食事を楽しんでいる。一方で職員はさりげないサポートしている様子をうかがうことが出来た。なおホームで収穫した野菜料理も食卓に並べられていて楽しい雰囲気をかもしだしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は今のところ1日置きであるが、入浴が好きな利用者からの希望があり、20時までの夜間浴について実施に向けて検討中とのこと早期実現を期待したい。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自己評価でホームの反省として楽しみごとや気晴らし支援を全体で捉えず、一人ひとりのもつ生活歴を踏まえ持てる力を引き出すことで、役割や楽しみごと、気晴らしの支援をおこなっていて、個人ケアにつなげる努力をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候等、状況の許す限り、買い物や散歩やドライブに出たり、ホームの周囲の草取り等も行い支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面しているだけに赤外線センサーを設置しているが玄関の鍵は(日中)かけていない。なお、一部居室の掃き出し窓について転落防止のため開かなくしているが、近く開放するとしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの運営規定には、6ヶ月に1回避難訓練を行うことになっているがこれまで実施されていない。マニュアルもないし、いざという時にこのままでは心もとない。通路に障害物となるような物は置かず避難経路は確保されているが、対策上十分とはいえない。	○	ホームとしては、今後地震をはじめ各種災害に備え避難、救出訓練を規定どおり実施するとしているが早急にマニュアルを作成するとともに、夜間を想定した訓練を含め実施して頂きたい。その場合、消防署や地域住民の協力を求めていく上で、運営推進会議の中での活用を検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分、塩分の調整の摂取量を記録する等カロリーを含め健康管理に配慮している。週ごとの献立表について管理栄養士の指導・助言を得ているし、体重チェック(1ヵ月ごと)も行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	前回改善項目のひとつであった「オリーブ」の看板は、大きくて目立つものが設置されている。 建物はシンプルな設計で玄関まわりも良く天窓にはロールカーテンを取りつけ採光の調節が出来るので落ち着いた設定である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さは平均10㎡でまずまずと言える。 家族の理解と協力で入居時に使い慣れた家具や身の廻り品を持ち込んでいるので、自分の家、自分の部屋として居心地よく暮らしている。		